学力向上推進拠点校指定事業最終年次リーフレット　大牟田市立松原中学校

校　　長　長　　裕二
教務担当主幹教諭　下川　雅史
電話0944-53-6035

授業改善

【本校が3年間で目指した授業】 自他の考えの根拠を比較し、検討する対話活動を通して、考えを広げ、深め、学びの価値を自覚できる授業

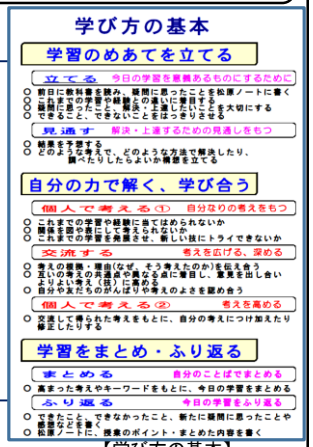
このような取組が効果的だった！

≪取組1≫「学び方の基本」をもとにした授業づくり

○　松原中学校と中学校区内の大正小学校、中友小学校において、基本的な授業の展開として「学び方の基本」を共有している。この「学び方の基本」をもとに全教科で統一した授業展開と対話活動を行った。

（成果）

授業改善の意識が向上したことで学習に関する教師用アンケート（4段階尺度・6月実施）結果において、「生徒の間で話し合う活動をよく行わせている」「ふり返りの活動を計画的に取り入れている」の項目が年度ごとによくなった。



【学び方の基本】

≪取組2≫考えを広げ、深め、学びの価値を自覚する取組

①　交流場面（同質・異質のグループ）において、自分の考えの根拠を比較する対話活動を位置づけた。

②　授業で中心になるキーワードをもとに、内容面をまとめ直す活動と、できなかったことの要因や疑問、自分の考えの変化や深まりなど思考面を「ふり返り」として記述する生徒自身による「まとめ・ふり返り」活動を位置づけた。

（成果）

「主体的な学び」「対話的な学び」「学んだことを他の学習に生かす学び」の質問項目において、いずれも県平均を大きく上回った。

アンケート項目	H29	H30	R1
授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行わせている	2.19	2.21	2.47
授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている	2.42	2.71	2.75

【学習に関する教師用アンケート結果】

質　問　事　項	当てはまる	県平均との差
1，2年生のときに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたと思いますか	52%	＋24
生徒の間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか	56%	＋28
授業で学んだことを，ほかの学習に生かしていますか	46%	＋22

【全国学力・学習状況調査生徒質問紙(R1)の結果】

マネジメント

【本校が3年間で確立したマネジメント】
学力向上プランをもとに教師・生徒・保護者で取り組む検証改善サイクル

このような取組が効果的だった！

≪取組1≫ミドルリーダーを生かした組織の主体的な運営（組織マネジメント）

○　教務担当主幹教諭、研究主任、学力向上コーディネーターが企画した各部会のワークショップ型の校内研修において、生徒の学力の課題を協議し、各部会が考えた解決策を盛り込んで修正した学力向上プランをもとに、全教員が実証授業を公開した。

（成果）

「課題を共有し組織的に取り組んでいる。」の項目の評価が年度ごとに上昇した。

≪取組2≫C（チェック）とA（アクション）を重視した検証改善サイクル

○　目標と具体的な成果指標をもとに、生徒による授業評価と教師による授業評価の分析を行い、学力向上プランの評価・改善を職員全員で行った。また、重点単元の評価テストの結果分析をもとに年間指導計画の見直しを適宜行った。

（成果）

「PDCAサイクルを確立している」の項目の評価が年度ごとに上昇した。

≪取組3≫　教師・生徒・保護者をつなぐ松原ノート

○　その日の授業をふり返り、復習、予習に毎日取り組む松原ノートの活用を通して、家庭学習の充実と保護者との連携を図った。

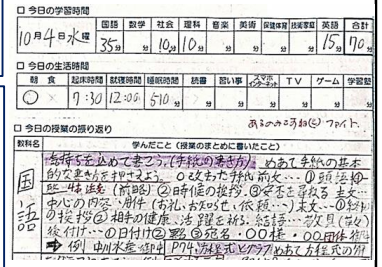
（成果）

「家庭学習の時間」、「家庭での計画的な学習」のアンケート結果が全国の平均を上回った。

【学力向上のための組織】

アンケート項目	H29	H30	R1
学校全体の学力傾向や課題について全教職員間で共有している	2.73	3.00	3.12
学級運営の状況や課題を全教職員間で共有し、学校として組織的に取組んでいる	2.26	2.71	2.82
生徒の姿や地域の現状に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している	2.16	2.71	2.82

【学習に関する教師用アンケート結果】



【松原ノート（家庭学習ノート）】

【考察】質的向上につながった本校の授業改善について

○　「学び方の基本」をもとに、めあての立て方、対話活動の仕方、まとめ・ふり返りの仕方を全教科でそろえることで、生徒が見通しをもって学習に取り組むとともに、答えを待つのではなく、自分の言葉で自分の考えを書くことができるようになった。

○　自分の考えの根拠を、事実と理由（事実を個人の教科の見方・考え方を通して分析・解釈・推論した考え）をもとにして比較する対話活動が設定されるようになり、活発な対話活動の中で自分の考えを広げ深めることができる生徒が増加した。

○　視点を明示した「ふり返り活動」によって、自分のこれまでの学習を関連付けたり、学習の価値について自覚したりすることができる生徒が増加した。

【考察】効果につながった本校のマネジメントについて

○　全職員で本校の課題と解決策を考え、それをもとに学力向上プランを修正したことで、全員が課題意識を持ち、共通の取組を行い、学力向上や授業改善の意識が向上した。

○　計画的に会議日を設定することで、計画的な話し合いをもとに各組織が取組の検証改善を行い、計画の見直しや効果が上がる取組になり、教科・学級・学年で差のない取組として徹底することができた。

○　教師と生徒の授業評価や、教師用と生徒用と保護者用を関連づけた学習に関するアンケートや松原ノートをもとにして、教師・生徒・保護者が連携して学力向上に取り組むことができた。